

# ブルボン

# 環境報告書 2021

BOURBON Environmental Activity Report



おいしさ、思いやり、いつもいっしょに。



# おいしさ、思いやり、 いつもいっしょに。

## Contents

■ごあいさつ	01
■持続可能な未来社会へのアプローチ、環境マネジメントシステム	02
■目標と実績	04
■環境との関わり	06
■地球温暖化防止活動	07
■IoTデータ活用による環境改善活動	11
■省資源活動	12
■省エネルギー活動	14
■廃棄物削減・リサイクル・環境リスクマネジメント活動	15
■環境の保全・維持、社会との共生	16

●記載対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日

●記載対象範囲 株式会社ブルボンおよび北日本羽黒食品株式会社



## ごあいさつ

### 持続可能な社会を目指して



地球温暖化などの気候変動の影響が国際的に緊急かつ甚大な課題となる中、国内でも2030年に向けた温室効果ガス削減目標の達成に向け大きく動き始めました。大気汚染、資源枯渇、廃棄物対策などの環境問題も依然として顕在しており、社会全体でこれまで以上に取り組む必要があります。加えて、多様な人材が活躍できる就業環境の整備や、社会の変化に対応したコーポレート・ガバナンスの充実など、企業の社会的責任も求められています。これらは経済・技術格差などを含め、私達が一丸となって対処すべき共通の課題であり、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を達成するために、グローバルな観点から継続的に取り組み、改善していく必要があります。

当社は、経営理念として「利害相反する人を含めて、集団の生存性を高める」を掲げ、当社を取り巻く七媒体（消費者、流通、国・県・市町村、株主、金融機関、取引先、従業員）の全ての生存性を高める企業活動を目指しております。この活動の一つとして、行動規範・指針を策定し、役員および従業員全員で社会への貢献、国際社会ルールへの適応、人間尊重などの基本方針に沿った取り組みを推進してまいりました。また、環境問題に対しましても、環境基本理念として「顧客の要望に応える品質水準で、安全・安心・経済的な飲食とサービスを継続的に提供するため、製品の研究開発、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階で地球環境の保全と環境問題について自主的な改善活動に取り組み、社会に貢献することが、私たちの環境活動です。」を掲げ活動を推進してまいりました。さらにこの活動が、組織・システムとして機能するように、ISO14001環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年6月の認証取得以来、継続した改善を行ってまいりました。

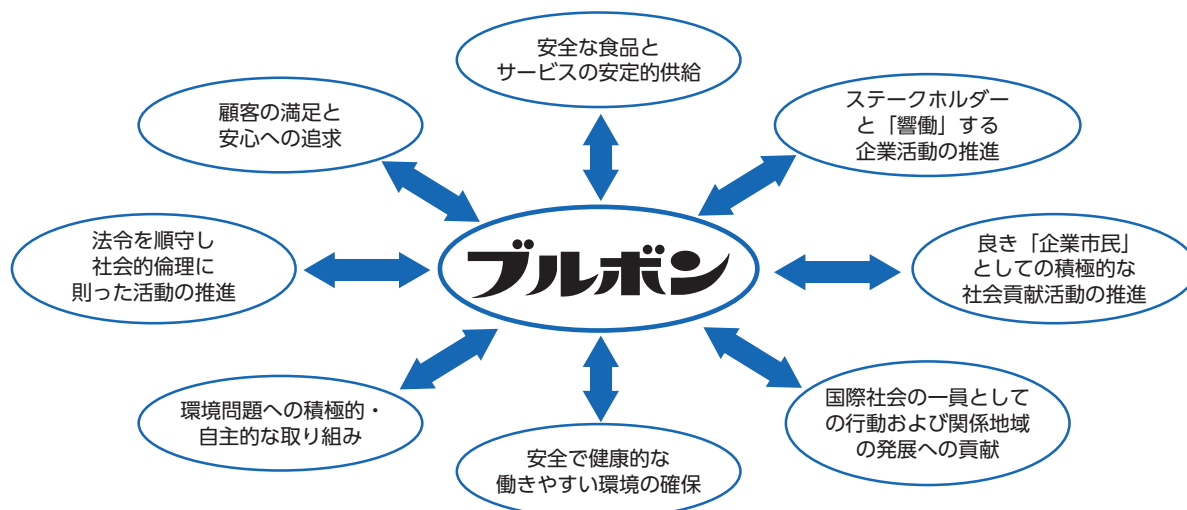
当社では今後も、食品製造企業として「品質保証第一主義」に徹した種々の活動に継続して取り組んでまいります。“食”を通じて豊かな生活と健康への寄与など皆様の幸せな生活に深く関わるとともに、全社一丸となってこの考えをさらに推し進め、環境保全を含めた“心と体の健康づくり”をテーマに、持続可能な未来社会をデザインしていく健康増進総合支援企業として、継続的な発展と社会への貢献を目指してまいります。

本報告書により2021年3月までの当社グループの環境保全活動をご報告いたします。皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社 **ブルボン**  
代表取締役社長 **吉田 康**

## 持続可能な未来社会へのアプローチ

株式会社ブルボンは、関東大震災の影響により地方への菓子供給が全面的にストップした窮状を見て、地方での量産工場による菓子作りを決意し1924年に新潟県柏崎で創業しました。菓子・飲料・食品の開発・製造・販売を通じ、豊かな生活と健康への寄与など皆様の幸せな生活に深く関わるとともに、持続可能な未来社会をデザインしていく健康増進総合支援企業を目指した活動に取り組んでいます。また、災害や社会的困難が起きた時に「お役に立てる企業であり続ける」という創業原点の継承を本願として事業活動を継続しており、社会の一員として役割と責務を果たすよう正しく行動し、社会への貢献活動を推進しています。さらに、法的責任と倫理的責任のある企業行動に努め、業務遂行に際しては人間としての尊厳と価値が認められ高い志と心の健全性をバランスさせた自己形成に取り組める職場環境の構築と、社員が生きがいを持って働くことのできる健康を重視した経営にも取り組んでいます。これらのアプローチにより、2015年に国連サミットにおいて採択された2030年までの達成を目指す17の目標「SDGs（持続可能な開発目標）」に向けて貢献してまいります。



## 環境マネジメントシステム

### 環境基本理念

顧客の要望に応える品質水準で、安全・安心・経済的な飲食とサービスを継続的に提供するため、製品の研究開発、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階で地球環境の保全と環境問題について自主的な改善活動に取り組み、社会に貢献することが、私たちの環境活動です。

### 環境基本方針

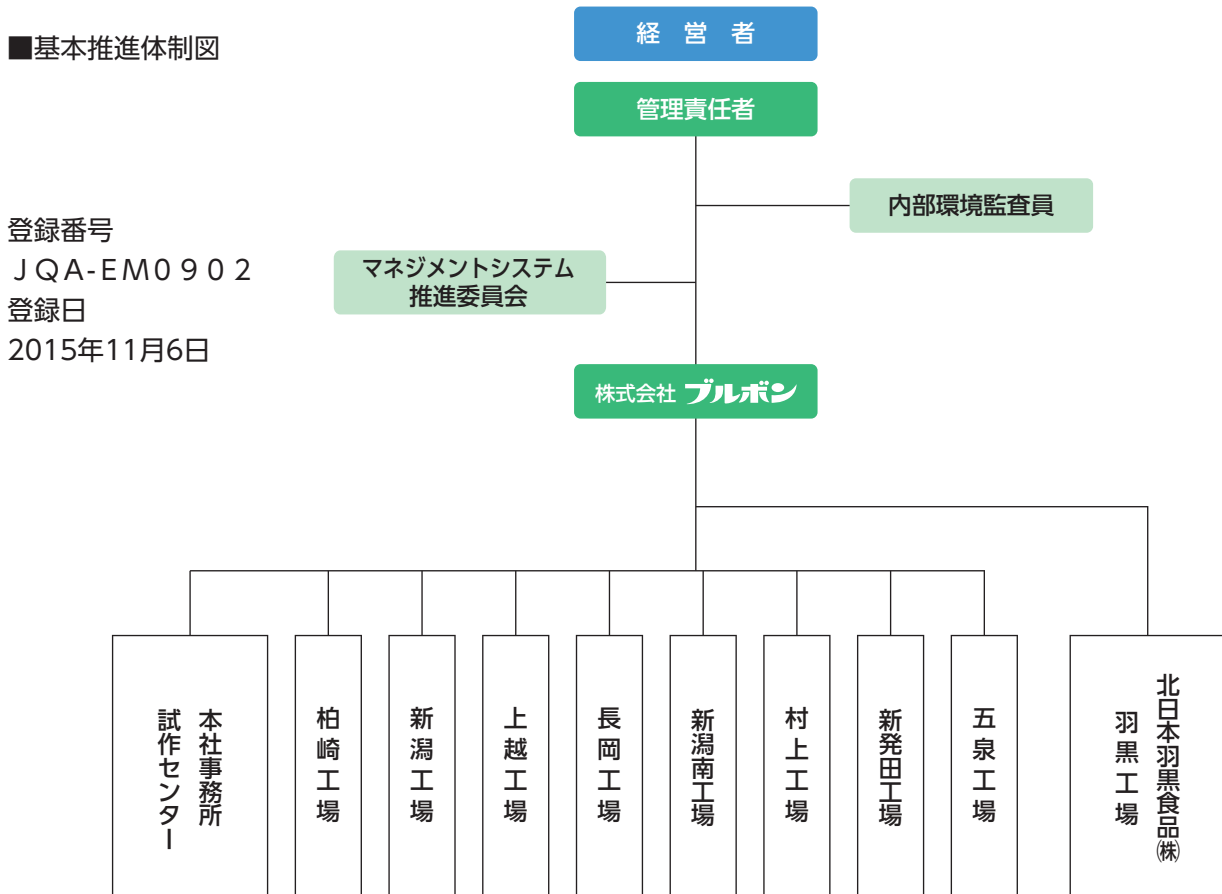
- ① 食品企業として、原材料調達、開発、生産、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階に於いて地球環境に影響する問題を、可能な範囲内に於いて自主的な取り組みを行い、環境改善の向上に取り組めます。
- ② 環境問題について継続的な改善と汚染予防に取り組めます。
- ③ 環境の関係法令、規則、協定等を順守致します。
- ④ 環境目標を設定し、環境に影響する問題の低減を図り、環境マネジメント体制の整備に取り組み、環境目標の見直しを継続して行います。
- ⑤ 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続して改善していきます。

# 環境マネジメントシステム

## 推進体制

当社では、環境問題に対する全社的な取り組みを行うためにISO14001を基軸とした環境マネジメントシステムを構築しています。直接的な環境影響に加え間接的な環境負荷の継続的改善にも取り組みながら、一層の社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムの改善を進めてまいります。

■基本推進体制図



## 主な環境関連法

項目	環境関連法			
環境一般	● 環境基本法	● 循環型社会形成推進基本法	● 公害防止組織法	
地球環境関連	● 地球温暖化対策推進法	● オゾン層保護法	● フロン排出抑制法	
大気汚染関連	● 大気汚染防止法			
水質汚濁関連	● 水質汚濁防止法	● 下水道法		
騒音・振動関連	● 騒音規制法	● 振動規制法		
悪臭関連	● 悪臭防止法	● 浄化槽法		
エネルギー関連	● 省エネルギー法	● 建築物省エネ法		
廃棄物関連 リサイクル関連	● 廃棄物処理法 ● 食品リサイクル法	● 容器包装リサイクル法	● その他各種リサイクル法	
化学物質関連	● PRTR法			
安全関連	● 労働安全衛生法	● 高圧ガス保安法	● 毒物、劇物取締法	● 消防法
土壌汚染関連	● 土壌汚染対策法			

# 目標と実績



## 本社・各工場の目標と実績 (主な活動の抜粋)

経営者の定めた環境方針の達成および環境活動による実績を継続的に改善するため、環境目的・目標を立案し、それぞれの活動の進捗・遂行管理を行い取り組んでいます。

実績は次の活動への参考データとし、より一層の活動推進に取り組みます。

### 《2020年度環境目標・実績 (抜粋)》

〈達成状況〉 評価内容 計画通りに推移している…◎ 目標に向けて順調に推移している…○ 継続した取り組みを行う…△

		2020年度目標	2020年度実績	達成状況
本社・試作センター	 本社ビル	●エネルギー使用量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 0.2%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2019年度比3.0%削減する	原単位 3.1%削減	◎
	 試作センター	●規格外品発生量を、原単位で2019年度比8.0%削減する	原単位 6.9%削減	○
		●輸送エネルギー使用量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 2.3%増加	△
		●45件の商品包装材の減量化・見直しを行い、容器包装廃棄物の削減を図る	62件の減量化、見直しを実施	◎
		●包材使用量を削減する	達成率 104.1%	◎
柏崎工場		●品質と収益性の向上を目指した機械開発、導入を18件行う	20件の設備開発、導入を実施	◎
		●電気、A重油、L P G、都市ガスの原油換算量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 2.4%増加	△
		●水道使用量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 7.3%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2019年度比3.0%削減する	原単位 3.9%削減	◎
新潟工場		●規格外品発生量を、2019年度比8.0%削減する	削減率 13.2%	◎
		●電気の使用量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 7.7%削減	◎
		●A重油、L P G、都市ガスの原油換算量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 16.2%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 7.0%削減	◎

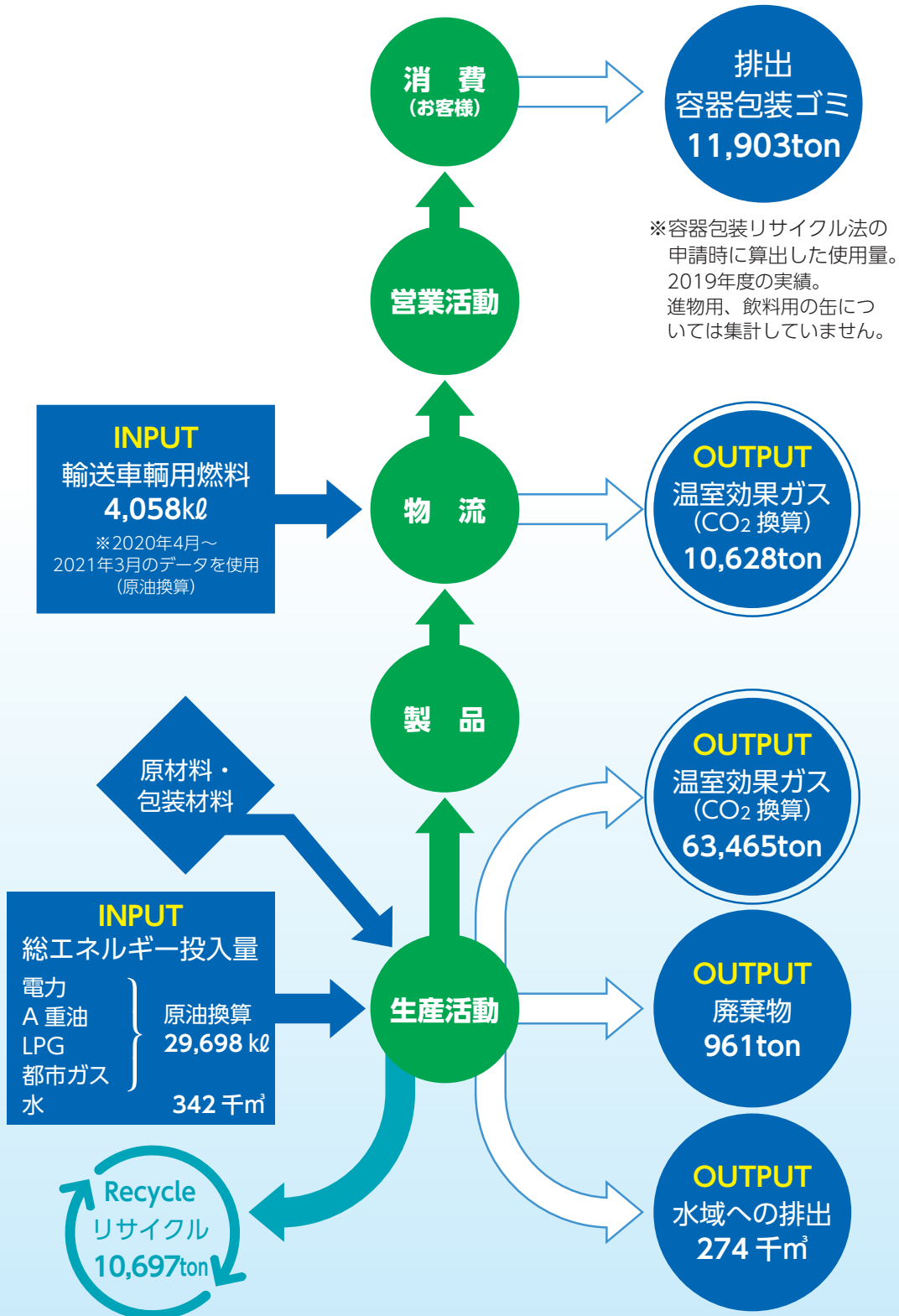


		2020年度目標	2020年度実績	達成状況
上越工場		●電気の省エネルギーを行う ・原単位で2019年度比 1.0%削減する	原単位 6.2%増加	△
		●熱の省エネルギーを行う ・原油換算原単位で2019年度比 2.0%削減する	原単位 7.4%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2019年度比3.0%削減する	原単位 8.4%削減	◎
		●規格外品発生率を、原単位で3.0%削減する	原単位 2.6%削減	○
長岡工場		●省エネルギーを行う ・電気、A重油、LPGを原単位で2019年度比 1.0%削減する	原単位 1.8%削減	◎
		●廃棄物排出量を削減する ・原単位で2019年度比 3.0%削減する	原単位 6.1%削減	◎
		●規格外品発生率を2019年度比8.0%削減する	削減率 1.7%	○
新潟南工場		●全エネルギーの省エネルギーを行う ・電気、LPG、都市ガスの原油換算量を、原単位で2019年度比0.5%削減する	原単位 0.8%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2019年度比0.5%削減する	原単位 6.0%削減	◎
村上工場		●省エネルギーを行う ・電気、A重油、LPGの原油換算量を、原単位で2019年度比1.0%削減する	原単位 1.7%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2019年度比3.0%削減する	原単位 6.7%削減	◎
新発田工場		●電気の省エネルギーを行う ・原単位で2019年度以下にする	原単位 11.6%増加	△
		●熱の省エネルギーを行う ・LPGの原油換算量を原単位で2019年度以下にする	原単位 25.1%増加	△
五泉工場		●生地移動用段ボールの削減 ・全移動用段ボールに対するコンテナ使用比率を35%以上にする	コンテナ使用率 35.5%	◎
北日本羽黒食品株式会社 羽黒工場		●工場のエネルギー使用量の原油換算量を、原単位で1.0%削減する	原単位 3.7%増加	△
		●工場の廃棄物排出量を、原単位で2019年度比3.0%削減する	原単位 7.4%増加	△
		●規格外品発生率を、2019年度比8.0%削減する	発生率 12.5%増加	△

# 環境との関わり



当社は、事業活動として菓子、飲料、食品を製造し、お客様へ提供しています。菓子、飲料、食品の製造に使用する原料、包装材料、製造・加工のためのエネルギー、お客様へお届けするための輸送のエネルギーは、全て環境からの恩恵を消費し、製造・加工に伴い発生する不要物を排出しています。環境負荷の低減については、どんなに小さな活動でも、継続して実施していくことが大切です。自らの活動がどのように環境と関係しているのかを、正しく認識するとともに、率先した環境への取り組みを実践してまいります。





# 地球温暖化防止活動



## 脱炭素社会の実現に向けた取り組み

世界的に深刻化する気候変動問題を踏まえ、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざす動きが広がっています。このような中、太陽光などの再生可能エネルギーを使用して発電した電力を自家消費することで、事業活動における二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出量を削減する取り組みが高まっています。当社でも、環境負荷低減を図る活動の一環として、2020年8月から新発田工場の屋根に、太陽光パネルによる発電設備を設置し自家消費型太陽光発電（PPA）を開始いたしました。太陽光を利用した発電により、年間約210トンの二酸化炭素削減を見込んでいます。



新発田工場 外観

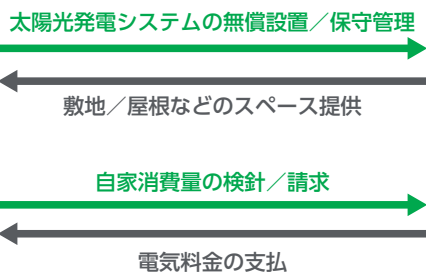


新発田工場屋根太陽光パネル

### PPA 概要



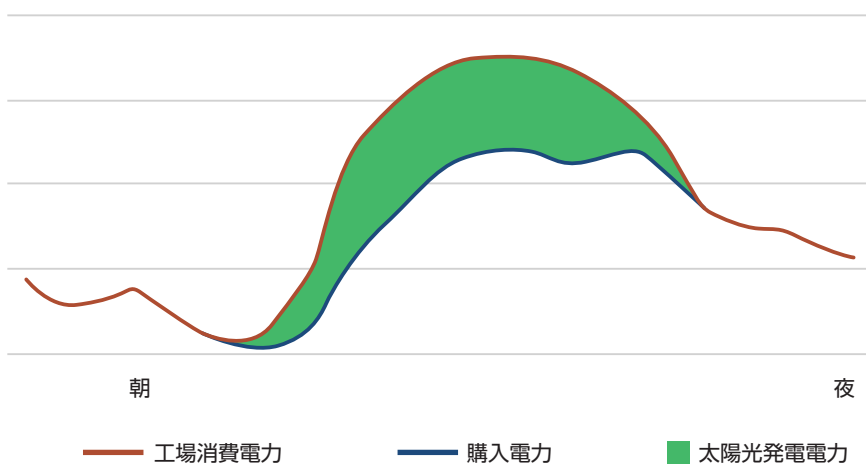
PPA 事業者



当社

出典 <https://www.solar-frontier.com/>

### 使用状況図



#### メリット

工場での電力消費ピーク時に、太陽光によるクリーンな電力供給を行い、省資源と地球温暖化防止への貢献を図ります。

# 地球温暖化防止活動



## ホワイト物流自主行動宣言

国土交通省、経済産業省、農林水産省が推進する「ホワイト物流推進運動」に賛同し、自主行動宣言を提出しました。近年のトラック輸送における人員不足や労働時間などの課題に対して、宣言した7項目への継続した取り組みを通じ、トラック輸送における作業環境と労働環境の改善などの働き方改革を、業界と連携して推進してまいります。

取組項目	取組内容
物流の改善提案と協力	物流事業者からの荷待ち時間や荷役時間の削減等の物流効率化提案があった場合協議に応じ、相互協力して物流効率化の推進に努めます。
パレット等の活用	トラックドライバーの荷役作業の削減のため長距離幹線輸送の更なるパレット輸送の推進に努めます。
集荷先や配送先の集約	事前に輸送する商品を集約して積み込み場所の削減を図ります。また配送先についても直送先を再検討し、可能な部分は集約できるよう努めます。
リードタイムの延長	長距離幹線輸送の出発から到着まで物流事業者より、リードタイムの延長について要請があった場合、真摯に協議に応じます。
船舶や鉄道へのモーダルシフト	長距離幹線輸送について発送するコンテナの大型化等、更なる鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを推進し、環境負荷の低減に取り組みます。
納品日の集約	物流業者より1日では配送量が一定に満たない地域の隔日、定曜日配送について要請があった場合、真摯に協議に応じます。
異常気象時等の運行の中止・中断等	台風、地震などの災害、異常気象が発生、または発生が予測される際は、災害地の状況を考慮して無理な運行の依頼はしません。また物流事業者から乗務員の安全の確保のため運行の中止・中断の要請があった場合は応じます。

## 鉄道へのモーダルシフト増加とコンテナ大型化の推進

当社ではCO<sub>2</sub>削減対策として、トラック輸送から環境にやさしい鉄道や船舶によるエコ輸送に転換する“モーダルシフト”に長年にわたり取り組んでおり、さらなるモーダルシフトを推進するため、鉄道モーダルシフトの増加とコンテナ大型化を推進しています。物流の分野においては、鉄道貨物輸送を利用して1トンの貨物を1km輸送したときに排出されるCO<sub>2</sub>は、トラック輸送に比べて約11分の1と少なく、地球温暖化への影響を抑制できます。今後も継続して環境への負担が小さく、地球環境にやさしい輸送方法を積極的に活用し、商品の安定供給に努めてまいります。

### 【モーダルシフトについて】

幹線トラック輸送…12フィートコンテナ100台分の商品をトラックで輸送すると、10 tトラックが40台必要となる。



必要ドライバー人数



鉄道コンテナ輸送…1度の運行で輸送可能な12フィートコンテナ数は1両当たり5台×20両=100台となる。



運転士人数



鉄道貨物輸送はCO<sub>2</sub>排出量が  
トラックの約11分の1



## エコレールマーク認定商品

当社は、国土交通省ならびに公益社団法人鉄道貨物協会が実施する“エコレールマーク<sup>※1</sup>”活動に賛同し、2006年に“エコレールマーク取組企業<sup>※2</sup>”の認定を受けました。また同年12月には、当社商品「イオン水」「天然名水出羽三山の水」「プチシリーズ」等で“エコレールマーク認定商品<sup>※3</sup>”を受けるなど活動を進め順次拡大しています。2020年7月には、「ルマンド」を含む「オリジナルビスケットシリーズ」で新たに認証を取得し、パッケージへのエコレールマークの印刷を行っています。



- ※1 エコレールマーク：環境や地球にやさしい、鉄道貨物輸送を一定割合以上活用し、地球環境問題に積極的に取り組んでいる企業や商品であることを表示するマークです。
- ※2 エコレールマーク取組企業：500km以上の陸上輸送のうち、鉄道の利用率が数量または数量×距離のいずれかで15%以上であること。もしくは、年間の鉄道利用数量が15,000トン以上または数量×距離が1,500万トンキロ以上であることが要件です。
- ※3 エコレールマーク認定商品：500km以上の陸上輸送のうち、鉄道の利用率が数量または数量×距離のいずれかで30%以上であることが要件です。

## 水性グラビア印刷による包装材料を使用した商品

水性グラビア印刷した包装材料を積極的に採用しています。水性グラビア印刷は、油性グラビア印刷と比較して、印刷工程での大気中への二酸化炭素排出量を低く抑えることができるほか、VOC（揮発性有機化合物）の使用・排出を削減する効果があります。VOCの排出削減は印刷作業環境の改善、作業従事者の健康維持などに繋がっています。また、水性グラビア印刷を採用したパッケージには、地球と人にやさしい水性印刷を施した包装材料を使用した商品であることを示す“水性印刷商品認証マーク<sup>※4</sup>”をパッケージに表示しています。当社では引き続き、消費者のみならず商品にかかわる人々の働く環境にも配慮した商品設計を行い、積極的に推進してまいります。



- ※4 水性印刷商品認証制度：包装材料の印刷作業環境を改善し、作業従事者の健康維持を図るとともに、大気への揮発性有機化合物の排出削減等、環境に対する企業の社会貢献活動を促進する目的で創設され、一般社団法人健康ビジネス協議会が実施している認証制度です。



# 地球温暖化防止活動



## カーボン・オフセットの取り組み

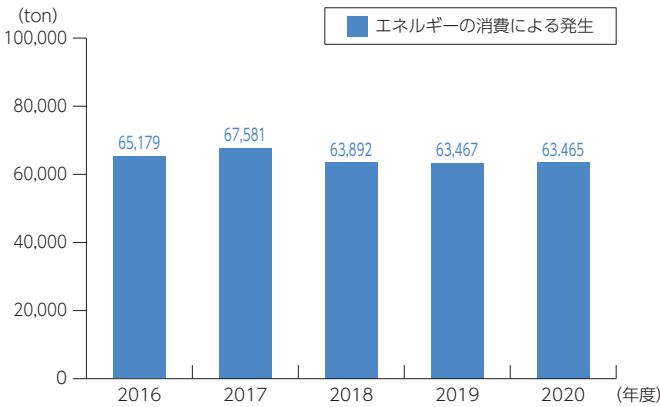
新潟県が推進する森林整備等への貢献を目的としたカーボン・オフセットの取り組みに賛同し、「魚沼わくわくの森クレジット」を購入しました。森林が私たちに与える豊富な恵みと、生物の多様性の保持、水源かん養機能など多面的な里山機能の復活と、地域林業の活性化を目指すとともに、森林が持つ二酸化炭素吸収機能による地球温暖化防止への貢献を図ってまいります。

商品へのシンボルマークの表示とともに、2020年度は新潟県が実施した「にいがた環境フェスティバル2020」にパネル出展を行い、カーボン・オフセットの周知啓発を図りました。

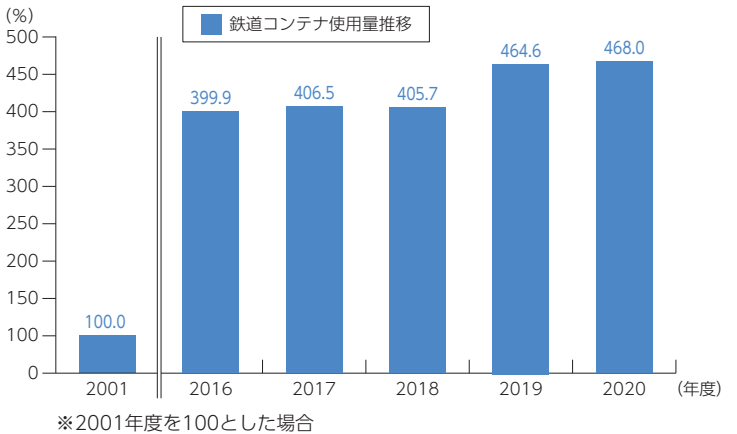


## 温室効果ガスの排出抑制

### ■全工場の二酸化炭素発生量

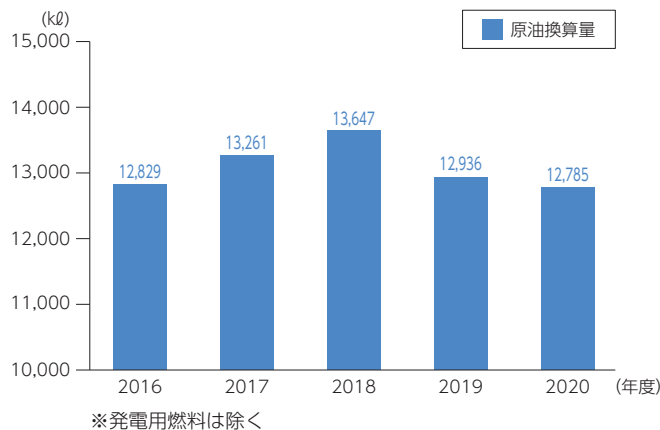


### ■製品輸送 鉄道コンテナ使用推移

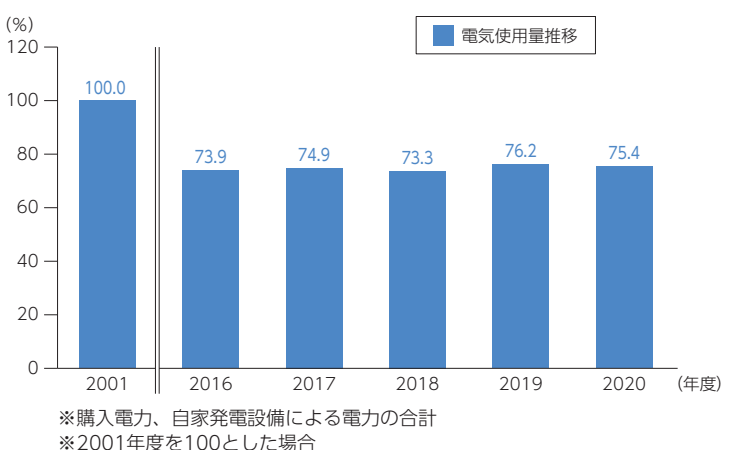


## 全工場のエネルギー使用量推移

### ■原油換算量 (電力を除く)



### ■電気使用量推移



# IoT データ活用による環境改善活動



## ミニシルベーナ FS の品質安定化



取り組みリーダーの声：新潟南工場 佐々木製造副課長



今回の活動の中で、IoTデータを活用した品質の安定化を図ることで、改めて、各工程のムリ・ムラ・ムダを再認識することができました。品質を安定させるために様々な改善を行うことで、不要な工程が削減され、「品質の安定化と生産性アップ・作業者のやる気アップ」へとつながりました。これからも、チーム内でデータを活用し、考えることで、さらなる生産性の改善と品質向上に努めたいと思います。

### 1. 活動理由

IoTビッグデータを活用した生産・供給の安定化とデータ活用によるスキルの向上

### 2. ねらいと目標

ケーキ種の成型厚を解析し、品質の安定化を図る

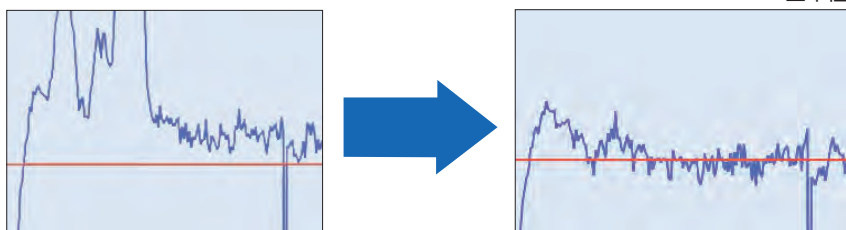
### 3. 課題分析と対策



課題	ケーキ種成型厚の均一化	各工程の把握	製品重量の安定化
分析結果	測定機を活用し、ケーキ種の成型厚を測定したところ、部分的に生地厚の差が生じており、常に均一ではなかった。	各工程で把握した情報の連携不足から前後の工程へうまくフィードバックできていなかった。	包装機の計量データの収集を行ったところ、包装する個装生地の分散にバラつきがあることが判明した。
対策	測定機のデータをリアルタイムで取得し、その活用により、成型厚のコントロールを行った。	各工程にタブレットを導入することで、リアルタイムでの管理状況の把握が可能になった。	計量器のデータ収集から、計量の状態が把握できるようになり、製品重量のさらなる安定化を行った。

### 4. 検証効果

測定機による成型厚の推移



各課題についてIoTデータを用いた分析・対策の実施をしたことで、ケーキ種の成型厚や製品重量などの品質安定化につながりました。また、各工程の情報をリアルタイムで把握でき情報共有の円滑が進んだことで、工程全体にわたってロスを削減することができました。

### 5. 今後の活動推進

活動を通じて、情報と課題の把握がこれまで以上に明確となり、品質の向上と安定化に向けて、具体的な対策が立てられるようになりました。今後は数値の分析や、改善手段の立案など、作業者のさらなるスキルアップが必要と感じます。お客様にいつまでも支持していただけるよう、IoT技術を一層活用し、品質の向上と安全・安心な製品の安定した供給を目指してまいります。

# 省資源活動



## 脱プラスチックへの取り組み

当社商品で進めている、プラスチックトレイや外包装材の厚みを薄くするなどの環境配慮活動の一環として、内容量や耐久性を維持したまま、商品に使用しているプラスチックトレイを除いた「ノートレー化」「紙トレイ化」を行いました。脱プラスチック商品には、当社オリジナル「eco包装マーク」を表示しています。

今後も、プラスチックゴミ削減や輸送エネルギーの軽減にもつながる省資源活動を積極的に推進してまいります。



### 【eco包装マーク】

ハートをイメージさせるマークには、“思いやり”と“やさしさ”の気持ちを込めました。

思いやりのあるやさしい気持ちから自然環境を大切にする行動が「芽生える」、それが重なって「滞りなく循環する＝良い環境」を一筆書きで表現しました。下からマークを包む月桂樹の葉で“全ての生態系の共栄”を加え、人間と全ての生きものとの共存、繁栄の願いをコンセプトとしました。

	<p>(旧) </p> <p>→</p> <p>(新) </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プラスチックトレイの使用をやめ、ノートレー化 →年間約19トンのプラスチック削減</p> </div>
	<p>(旧) </p> <p>→</p> <p>(新) </p> <p></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プラスチックトレイの使用をやめ、包装もスリム化し省資源化 →年間約41トンのプラスチック削減</p> </div>
	<p>(旧) </p> <p>→</p> <p>(新) </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>プラスチックトレイを紙トレイに変更 →年間約2トンのプラスチック削減</p> </div>



## 環境配慮型包材を使用した商品

- ① 商品を保護することを目的に使用しているトレーの原料の一部に、植物由来のバイオマスプラスチックを使用したトレーを採用し、トレー部分にはバイオスマーク<sup>※</sup>を刻印しています。また、包装材料については継続的な見直しを図り、強度を保ったまま厚みを低減することで石油由来のプラスチック包材使用量の削減を図っています。今後も、環境対応包材の使用を拡大させ、環境負荷低減を図ってまいります。



ブランチュールに使用しているトレー  
(バイオマスプラスチック25%配合)

- ② 2020年9月から、プチポテトシリーズにおいて外装に使用しているフィルムの厚さを削減するとともに、素材の一部にバイオマスPETフィルムを採用しました。商品の外装にはバイオスマーク<sup>※</sup>を印刷しています。



※バイオスマーク：生物由来の資源（バイオマス）を活用し、品質および安全性が関連する法規、基準、規格等に適合している環境商品に付与できるマークです。2006年8月から、一般社団法人日本有機資源協会が認定しています。

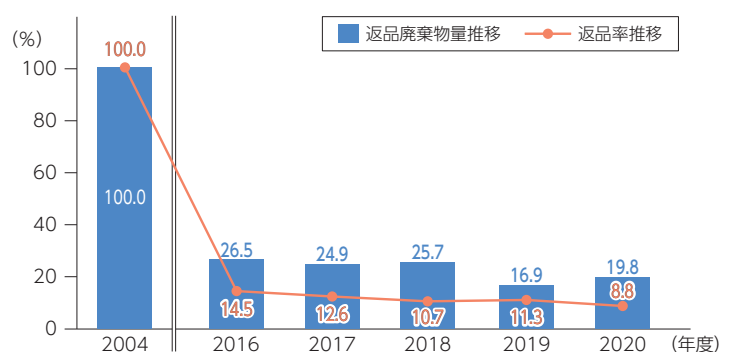
- ③ 2019年2月からは、手を汚さずにお召し上がりいただくため一部商品に使用していたプラスチック製フォークを紙製ピックに変更し、プラスチック使用量の継続的な削減に努めています。



## 返品廃棄物削減の取り組み

返品の削減活動に取り組み、商品の先入れ先出し管理の徹底や、適正量の管理などに継続して取り組んでいます。その結果、2004年度比91.2%削減することができました。また、返品された商品は産業廃棄物として処分していますが、処分量についても2004年度比80.2%削減しています。

■ 返品廃棄物量および返品率推移



※2004年度を100とした場合

## 省エネルギー活動



### 新型ボイラーの導入



既存のボイラー設備を、従来の石油燃料から都市ガスを燃料とする燃焼効率を向上したものに更新しました。石油資源の使用量の削減と省エネルギーを図りました。

### 設備の保温による省エネルギー



原料の保温に使用する温水槽および、配管の保温性能を見直しました。放熱の抑制による熱エネルギーロスの削減および、燃料の使用量を削減しました。

### 設備更新による電力削減



チョコレート製造設備に、より高効率な機械を導入することで使用電力の削減を図り、省エネルギーを行いました。

### コンプレッサーの更新による電力削減



既存のコンプレッサーを水噴式オイルフリー仕様に更新しました。設備の更新と従来の使用条件を見直すことで電力削減を行いました。

### 原料米浸漬時の水使用量の削減



米菓の仕込み工程における、原料米の浸漬時の給水方法を見直すことで、水使用量の削減を行いました。従来に比べ30%以上の節水につながりました。

### LED照明の推進



室内照明のLED化による継続した消費電力の削減を行いました。今後も継続した導入を図ってまいります。



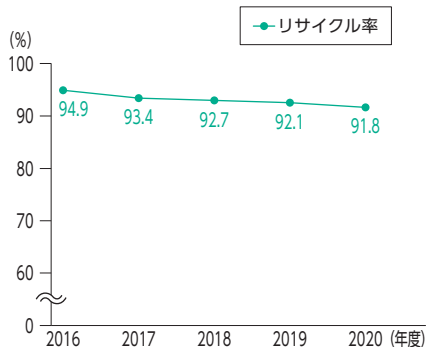
## 循環型生産システムの構築



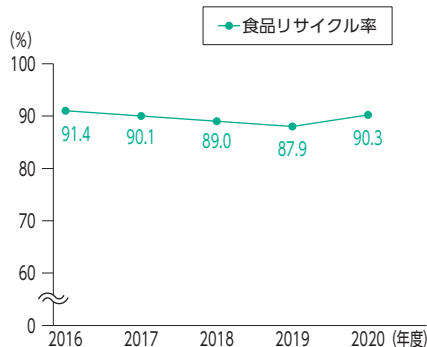
当社では、工場での製造時に発生する規格外品を、養鶏業者等の原料生産者に飼料として再利用してもらい、収穫・加工された原料を製造に使用する、「循環型供給体制」の確立に取り組んでいます。この取り組みにより、規格外品の有効利用と廃棄物の削減を図っています。今後も、生産性向上による規格外品の発生抑制を図り、やむを得ず発生するものについては、再利用方法の検証を重ね、安心・安全な原料調達や、安定した商品供給を行い、地域の一員としてサステナブルな社会の構築を目指してまいります。

## 各種リサイクル率の推移

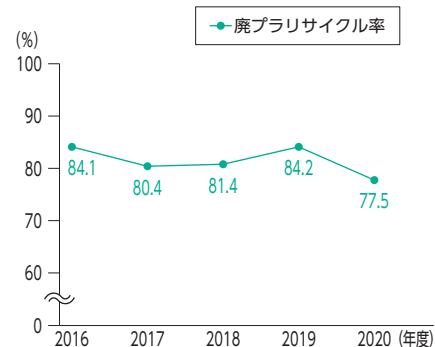
■全工場の廃棄物リサイクル率推移



■全工場の食品廃棄物リサイクル率推移



■全工場の廃プラスチック類リサイクル率推移



## 緊急事態を想定した対応訓練の実施



種々の緊急事態に対応するため、設備の緊急事態を想定した訓練を実施し、手順の確認と見直しを行っています。油脂タンク類、排水処理施設、ガス使用施設、自家発電設備、薬品類取扱い施設、廃棄物保管場所などでの緊急事態を想定した訓練を行い万一の事態に備えています。また、各設備において地震による緊急事態を想定した訓練も実施しています。訓練の結果により、必要に応じて対応手順の見直しや設備の改善などを行いました。

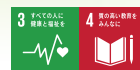
## 環境リスクマネジメント

種々の事故を想定した緊急時の対応訓練を行い、万一の事態にも備えています。

- ① 避難訓練の実施  
避難訓練時には、避難経路の確認、消火器や消火栓を使用した消火作業や応急救護と総合的な訓練を実施しています。
- ② 緊急事態の対応テスト  
漏洩等による敷地外への環境影響の発生を想定し、定期的に緊急事態の対応手順のテストを行い、必要に応じて手順の見直しを行っています。緊急時、外部機関への確に情報を伝達する訓練も実施しています。
- ③ 事故等の状況  
報告対象期間中における重大な事故等の発生はありませんでした。



## 環境の保全・維持、社会との共生



### 日本製の素材による3層不織布マスクをオンラインショップで販売開始

当社では、2020年初頭から拡大している新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に伴い、従業員の安全確保や健康を第一に、体調管理の徹底や三密状態の回避、在宅勤務による出社制限など感染防止に最大限努力、食品供給企業として求められる事業活動を継続し、社会経済活動の安定化に寄与してまいりました。また2020年11月からは、当社の事業活動で毎日使用する不織布マスクの安定確保のために自社製造を始め、社内での使用を進めてまいりました。2021年3月から、社会貢献活動の一環として当社オンラインショップにて3層不織布マスクの一般販売を開始いたしました。

オンラインショップでの「50枚入不織布マスク」売り上げの一部を、新型コロナウイルス感染症対応として日本赤十字社に寄付させていただきます。



### 「ブルボン花の輪運動」の実施 ～子供たちに“笑顔の花”を咲かせたい～

2015年度より、公益財団法人花と緑の農芸財団が主催する学校の花壇づくりを応援しながら子供たちの情操を育む社会活動「花の輪運動」へ協賛を継続して実施してきました。当社の本社や工場が立地する新潟県柏崎市内の小学校、特別支援学校をはじめとして、上越、長岡、新潟、新潟南、五泉、新発田、村上、羽黒の各工場立地地域の小学校等100校へ、1校あたりノースポール、パンジーの苗それぞれ100株と、チューリップ、ムスカリの球根それぞれ50個をお贈りしました。贈呈校をはじめ地域の皆様より、みんなで一緒に植え付けを行う姿や水やりなどの世話の様子、きれいに咲きそろった花々と子供たちが花を通して豊かに成長していく多くの姿など、うれしい反響を寄せていただきました。これからも、「ブルボン花の輪運動」の広がりを通して、“花の輪・人の輪・心の輪”により、子供たちの健やかな成長と、たくさんの笑顔につながっていくことを願っています。



## 「コロネクッキー」が2020年度グッドデザイン賞を受賞

世界でマイクロプラスチックを含む廃プラスチックの環境問題が深刻化しています。当社では長年培ってきた菓子製造技術の応用や発展により、トッピングとしておいしくお召し上がりいただけるほか、ストローとしても使用できるスティック商品「コロネクッキー」を開発し2020年1月に販売を開始しました。

2020年10月に、公益財団法人日本デザイン振興会からマイクロプラスチックなど廃プラスチックの環境問題が深刻化している中、お菓子メーカーならではの視点から楽しくユニークな発想で問題解決を図り、食べられる点を評価していただき「2020年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

コロネクッキーの包装フィルムには、環境負荷低減を図るためバイオマスプラスチックフィルムを採用しています。フィルム素材の一部を植物由来とすることで、枯渇資源である石油の使用量を低減でき、石油由来のプラスチックフィルムと比較して、温室効果ガスを削減できます。このフィルムは、一般社団法人日本有機資源協会が認定するバイオマスマークを取得済のフィルムです。



バイオマス  
No.110028

(C)JDP GOOD DESIGN AWARD  
<http://www.g-mark.org>



## 2020 日本パッケージングコンテストにて適正包装賞を受賞

当社ではプラスチック包材使用量の削減、包材原料の一部を植物由来のバイオマスプラスチックに置き換えるなど環境に配慮した活動に継続して努めています。

「ブランチュール」「ブランチュールFS」に使用しているプラスチックトレイを強度を維持しながら、さらなる薄肉化と植物由来プラスチックを25%使用したプラスチックシートを使用し、石油由来のプラスチック使用削減とCO<sub>2</sub>排出の低減を行いました。この取り組みは、公益社団法人日本包装技術協会より、包材の軽量化が図られ環境への負担が少ない素材を使用している点を評価いただき「2020日本パッケージングコンテスト※」において、適正包装賞を受賞しました。



※日本パッケージングコンテスト：

時代と社会の要請に対応した、生活文化に優れたパッケージおよびその技術の開発普及に資することを目的として、公益社団法人日本包装技術協会が主催し毎年開催されているもので、2020年で42回目を迎えました。

材料、設計、技術、デザイン、ロジスティクス、販売促進、アイデア、環境対応、適正包装など、あらゆる機能から各部門の年間の優秀作品を選定します。



## 環境の保全・維持、社会との共生



### ブルボングループ健康宣言

従業員が心身ともに健康で、生きがいを持って働き続けられること、ならびに多様な人材が生き活きとその能力を発揮できる職場は、従業員の働く意欲を高め、生産性の向上や家庭生活の充実につながり、企業活動の発展と企業価値の向上につながるものと考え、「ブルボングループ健康宣言」を制定しホームページで開示しています。

### 健康を重視した経営



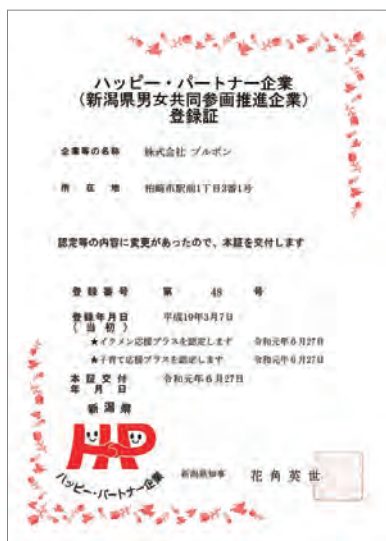
2021  
健康経営優良法人  
Health and productivity

従業員の健康と企業活動の発展に資する取り組みを推進するにあたり、「生活習慣病対策」「メンタルヘルス対策」「働き方改善」「女性の健康推進対策」「禁煙対策」の5つを重点項目として掲げています。この度、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人<sup>\*</sup>（大規模法人部門）」に認定をいただきました。

※「健康経営優良法人」認定制度：

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。なお、健康経営はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。

### ハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）に登録



職場における男女共同参画や子育て支援などの取り組み推進企業として、新潟県知事より子育て応援とイクメン応援をプラスした新しいハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）に登録をいただきました。当社は2007年より男女共に働きやすい職場環境づくりや女性の活躍推進、仕事と家庭等の両立に向けた取り組みを推進してまいりました。今後も、配偶者出産休暇、育児休業、看護休暇等の各制度の拡充を推進していくと同時に、男性社員の育児参加を応援する制度や施策の充実を図ります。また、男女共に働きやすく、仕事と家庭を両立しやすい職場環境を構築するとともに、育児に向き合うことで得られる種々の気づきを商品やサービス、生産性向上等に活かしてまいります。

### 子育てサポート

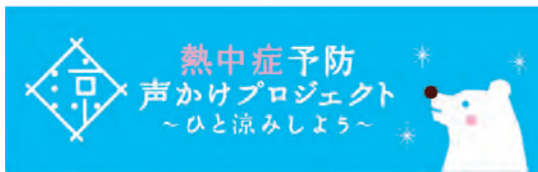


2017年6月に次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業として「くるみん」の認定を、厚生労働省新潟労働局より(株)ブルボンで、厚生労働省山形労働局より北日本羽黒食品(株)でいただきました。

従業員の一人ひとりが健康で心身ともに充実していることがお客様の心の豊さと、多くの笑顔につながることを考え、今後も、健康増進に向けた取り組みを積極的に進めてまいります。



## 環境省参画「熱中症予防声かけプロジェクト」での活動



環境省が参画する「熱中症予防声かけプロジェクト」に賛同し、2016年度より、発汗の季節に塩分やミネラルを手軽に補給できる「ミネラル塩飴」で参加しています。このプロジェクトは、「ちょっと、ひと涼みませんか」と声をかけあうゆとりと気遣いで、熱中症予防を啓発する活動です。2020年度は新潟県三条市福祉保健部が主催した「出張トーク：熱中症を予防して元気な夏を！」において、「ミネラル塩飴」の提供を通じて、啓発の活動を行いました。

積極的に官民で連携し、多角的に展開をした取り組みとして、「官民連携部門優良賞」を熱中症予防声かけプロジェクト実行委員会よりいただきました。今後も継続して取り組んでまいります。

## 食育活動の推進



食育基本法の前文に従い、当社は社員へのEラーニングによる食事習慣や朝食摂取等の栄養改善教育ならびに柏崎市内小学3年生を対象とした工場見学の実施などの活動を行ってまいりました。この結果、2020年3月に「2020年度日本食育学会食育推進企業・団体」の認定を受け、2021年度も継続して認定をいただきました。これは、2018年に一般社団法人日本食育学会が創設した制度で、食育推進基本計画等に基づく積極的な食育活動を通じて、国民の健全な食生活の実現に多大な貢献をしている企業・団体等組織を認定する制度です。今後も、菓子・飲料・食品の開発・製造・販売を通じて、食育活動を推進してまいります。

## ロングセラー賞受賞



株式会社日本食糧新聞社が主催する「第39回食品ヒット大賞」において、当社のクレープクッキー「ルマンド」が「ロングセラー賞」を受賞しました。

1974年（昭和49年）に発売し、時代のニーズを先取り、10年以上にわたる長期間その分野で上位の売り上げを確保し、今日に至るまで流通部門を潤している商品として評価をいただきました。

※日本食糧新聞社食品ヒット大賞について

1982年に日本食糧新聞の創刊40周年を記念して設けられました。毎年1回、前年度の食品業界において最もヒットした製品を、全国100社以上のモニター企業からの推薦により選考し表彰しています。

## 環境の保全・維持、社会との共生



### “心と体の健康づくり”の推進

当社は、豊かな生活と健康に寄与する“食”の提供に加えて、CSR（企業の社会貢献活動）の一環で、“心と体の健康づくり”をテーマに、“文化・芸術”や“スポーツ”の支援と次世代育成の活動に取り組んでいます。

#### 【文化・芸術支援活動】

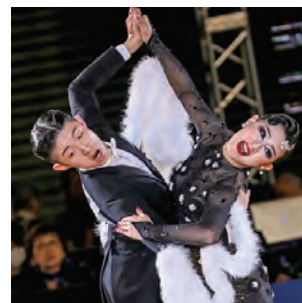
- 「めざましクラシックス」：“クラシックをもっと身近に！”をコンセプトにし、1997年にスタートしたカジュアルクラシックコンサートです。当社はその振興・発展にスタート時から協賛活動で支援しています。長年にわたり人気を集めており、東京での定期公演の他、夏季のサマースペシャル公演や地方公演にも支援の活動を拡げています。
- 「ドナルド・キーン・センター柏崎」：日本文学研究の第一人者であったドナルド・キーン氏の日本への思いや、研究・著作活動等歩まれた生涯を紹介する施設で、同氏の人となりや研究への情熱など真摯な生き方をお伝えする活動を支援しています。
- 「囲碁」：囲碁は「頭のスポーツ」といわれ日本国内のみならず、世界各国で楽しまれています。当社は2013年から「全国高校囲碁選手権大会」への協賛を通じ、囲碁の普及・発展を支援しています。

© フジテレビ



#### 【スポーツ支援活動】

- 「水球（ウォーターポロ）」：50年以上にわたり地元柏崎市で育まれてきた水球の伝統を発展させ、2010年に社会人チームとして発足した「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎」をネーミングライツなどで支援しています。現在では社会人から小学生までの階級を有する日本最大級のクラブチームとして、社会人のトップ選手が小学生などへの指導を行うなど、次世代育成にも努めています。  
また、2011年からは水球の日本代表チームのオフィシャルパートナーとしてその発展にも関わっています。世界を目指して日々努力を続ける選手の支援と、スポーツの力による一体感や地域の活力を生み出す活動に取り組んでいます。
- 「ダンススポーツ」：最近国民的生涯スポーツとしても注目を集めており、その普及・振興を支援しています。日本国内のトップを決める『三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権』には2007年から協賛活動をスタートし、また次世代を担うジュニア・ユース選手のトップチームの活動をネーミングライツでも支援しています。
- 「スケートボード」：新潟県村上市を拠点に、スケートボード競技の認知向上と、人々の心身の健全な発達と社会の発展を目指す一般社団法人日本スケートボーディング連盟の活動を応援しています。  
当社は主にスケートボード大会への協力を通じ、スケートボードスポーツの振興をサポートしています。



## 会社概要

社名	株式会社 <b>ブルボン</b>
創立	1924年（大正13年）11月20日
資本金	10億3,665万円
代表者	代表取締役社長 吉田 康
従業員数	約5,100名（ブルボングループ計、臨時・パートを含む）
営業品目	ビスケット、小麦粉せんべい、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、珍味、チョコレート、チューインガム、ミネラルウォーター、コーヒー・ココア飲料、その他清涼飲料水、粉末ココア、冷菓、酒類、米（通販のみ）、パン・インスタントラーメン（自販機のみ）、マスク（通販のみ）
本社	〒945-8611 新潟県柏崎市駅前1丁目3番1号 Tel 0257-23-2333(代) Fax 0257-22-2005 URL <a href="https://www.bourbon.co.jp/">https://www.bourbon.co.jp/</a>
オフィス 営業拠点	赤坂オフィス（東京都港区）、神戸オフィス（神戸市） 北海道・東北（仙台市）、北信越（柏崎市）、関東東（川口市）、関東西（横浜市）、中部（北名古屋市）、中国・四国（広島市）、九州（福岡市）、中華人民共和国（上海市）
工場	柏崎工場、上越工場、長岡工場、新潟工場、新潟南工場、五泉工場、新発田工場、村上工場
グループ会社	北日本羽黒食品(株)/羽黒工場、エチゴビール(株)、(株)レーマン/和光工場・軽井沢工場 波路夢（長興）食品有限公司 / 長興工場 波路夢（上海）商貿有限公司、Bourbon Foods USA Corporation
開発拠点 研究拠点	試作センター（柏崎市） 先端研究所 栄養科学研究室、新食糧研究室（新潟市バイオリサーチセンター内） 先端健康科学研究室（信州地域技術メディカル展開センター内）
株式上場	東京証券取引所市場第二部

## ISO14001認証取得の推移

登録認証機関：一般財団法人日本品質保証機構（JQA）

- 2000年6月に(株)ブルボン本社、本社工場（現・柏崎工場）、駅前工場において、認証を取得しました。新潟県内の食品会社では初めての取得になりました。
- 2005年7月にISO14001の規格変更に伴い、2004年度版へ移行しました。同年10月に上越工場において認証を取得しました。
- 2005年に駅前工場を本社工場へ統合しました。また、商品開発センター（現・試作センター）を設立しました。
- 2006年5月の更新時において、登録範囲を(株)ブルボン本社、本社工場、商品開発センターに変更しました。
- 2007年11月に長岡工場と北日本羽黒食品(株)羽黒工場において認証を取得しました。同年12月に新潟南工場と村上工場において認証を取得しました。
- 2008年2月に新潟工場において認証を取得しました。
- 2009年11月に新発田工場において認証を取得しました。
- 2011年2月に五泉工場において認証を取得しました。
- 2015年9月に各工場単位で取得していた認証を全社統合しました。
- 2017年10月にISO14001の規格改訂に伴い、2015年度版へ移行しました。



株式会社 **ブルボン** 総務推進部 広報管理課

TEL :0257-23-5070

FAX :0257-23-2352

ホームページアドレス : <https://www.bourbon.co.jp/>

発行年月日 : 2021年6月

次年度発行予定日 : 2022年6月

**UD** FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油インキを  
使用しています。